

TEGOネットだより浜田

はじめに

「てご」とは、方言で「手伝う（支援する）」という意味です。

平成20年12月9日 第19号
浜田市農林業支援センター

秋の収穫も終わり、一段落ついたことと思います。当支援センターが下記のとおり移転することとなりました。新しい事務所で職員も「心機一転」生産者の皆様のお役に立てるよう頑張る所存です。更なるご支援とご指導をお願いします。
(浜田市農林業支援センター長 齋藤 實)

浜田市農林業支援センター 移転のお知らせ

この度、当支援センターが移転することになりました。

移転先は、黒川町のJAいわみ中央本所の隣に新築された分館の2階です。同じフロアにはJA 営農経済部、1階には大人気の「きんさい市場」があり、来客用駐車場も拡張される予定ですので、近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、田町にある現在の事務所は12月12日(金)をもって閉鎖し、12月15日(月)からは新しい事務所で業務を開始します。お間違えのないようご注意願います。



この建物の
2階です

新事務所

〒697-0024 浜田市黒川町 3741 JA いわみ中央 本所分館 2階

※12月15日(月)以降の所在地です。電話・ファックス番号、メールアドレスは変わりません。

1. 「農事組合法人ひやころう波佐」を知事が表彰



▲表彰状を読み上げる溝口知事と河崎さん(左) 《11/28 島根県庁にて》

島根県では、「持続的に発展する島根の農林水産業・農山漁村」の実現に向け、暮らしに結びついた活動を展開する組織の知事表彰を始めました。今年選ばれたのは県内の7経営体で、浜田市からは金城町の農事組合法人ひやころう波佐(代表理事 河崎忠氏)が受賞されました。

ひやころう波佐は、波佐上地区の5集落(若生、西谷上、亀谷原、新井屋原、馬場)が一体となり、平成19年1月に広域の集落営農法人を設立。水稻や大豆を主体とした生産活動のみならず、都市(広島市ほか)との交流事業も積極的に展開しており、営農組織の広域化・経営多角化のモデルとして他の地域への波及効果が期待される点が高く評価されました。

2. 「有機農業実践セミナー」を振り返って

今年4月から7回に渡って開催してきた「有機農業実践セミナー」が11月8日に最終回を迎えました。

このセミナーでは、(株)ジャパンバイオフィームの小祝政明氏と、(株)ぐり〜んは〜との元木雅人氏を講師に招き、「植物の生理と肥料効果」「土壌分析法と施肥設計」という科学的根拠に基づいた講義や現地指導により、有機農法による水稻・野菜栽培の実証実験に大きな成果を上げることができました

我が国では、2006年に「有機農業の推進に関する法律」が施行されました。今後は、誰もが有機農業を短期間で習得できるように、県、市町村、関係機関、生産者が一体となって技術情報の蓄積、就農者の確保とネットワーク化などに取り組む体制づくりが大切ではないでしょうか。



3. 各支援チームからの話題

★ 新規就農支援チーム (担当: ^{かわうち}河内・^{さきもと}佐々本)

加工品開発について「その2」

前号で、加工品開発においては、まずターゲットの明確化(誰に買ってもらいたいのか⇔目標価格やパッケージデザインに連動)が重要であるとお伝えしました。これを検討するためには、以下のようなやり方があると思います。

- ① 加工品の試作を行い、原価を積み上げて販売価格を想定し、その売価でターゲットを絞り込む方法
- ② ターゲットを先に絞った上で販売価格を設定し、加工品開発をする方法

現在、支援センターで進めている加工品開発は①の手法を採用しており、包装や容量、価格を決めている段階で、島根県ブランド推進課などの指導を受けながら進めています。いずれの手法にも、やはり「味」「珍しさ」「ウリ」など、開発者側の商品に対するこだわりがあることが大前提と考えます。

● 認定農業者支援チーム (担当: ^{まえばら}前原・^{まつい}松井)

有機野菜の会が露地栽培を視察

11月28日、葉物野菜の施設栽培に取り組む「いわみ地方有機野菜の会」が、新たな作型として検討されている露地野菜(にんじん)の先進地であるJA鳥取西部(米子市)の栽培圃場と選果場を視察されました。



栽培方法の統一と共同選果によりにんじんの産地化を進める同JAでは、できるだけ多くの生産者がエコファーマー認定取得を目指すなど、環境に配慮した栽培を実践することで他の産地との差別化を図っておられます。また、消費者の好みに合わせて、より甘い品種への転換も試みておられました。

有機野菜の会の皆さんは、露地栽培の難しさを感じつつも、雑草対策などの課題解決に向けたヒントを見出し、意欲を新たにされたようです。



■ 集落営農組織支援チーム (担当: ^{つかもと}塚本・^{もりい}森井)

担い手先進地視察研修会の報告



11月12日(水)～14日(金)に実施した、三重県への『担い手先進地視察研修会』には、認定農業者、集落営農組織代表者、関係者合わせて14名が参加されました。

「農事組合法人伊賀の里モクモク手づくりファーム」の視察では、吉田専務から「客単価の重要性」や「地域に人を残すための経済活動」などの貴重なお話を伺うことができました。同ファームからは昨年、窪崎農業生産部長ら4名が浜田市にお越しになり、認定農業者の圃場を視察されたご縁がありますので、今後も交流を継続していきたいと思っております。

また、「第11回全国農業担い手サミット in みえ」では、皇太子殿下ご臨席のもと、全国から約2,100人の認定農業者や集落営農組織代表者が集まりました。活力ある農業の実現を目指す参加者の強い意気込みと、「顧客の信頼」「地域社会の信頼」「環境へのいたわり」が経営発展の基本であるというまとめの言葉が印象に残りました。



4. 今後の行事予定

○ 12月11日(木)・12日(金) 集落営農・特定農業法人サミット (松江市)

- 当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様へ配信しています。
- ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発刊元 浜田市農林業支援センター

〒697-0026 島根県浜田市田町765-1 → 〒697-0024 浜田市黒川町3741 (12月15日以降)

TEL: 22-3500 FAX: 22-3477

E-mail: n-shien@city.hamada.shimane.jp

移転します